

かわら版



Vol.87

令和元年度 No.7

2019年11月8日発行

特集：手話を考えるフォーラム第2分科会

「平成から手話言語が輝く令和へ」を総括テーマに開催された手話を考えるフォーラム2019。今年の第2分科会は「令和の手話サークル活動をみんなで考えよう」～新ともに歩む/千葉から発信！～と題し、これからのサークル活動についてディスカッションをしました。

<グループ（模造紙）発表>

サークル歴「①～⑤年」「⑥～⑩年」「⑪年以上」の3つのグループに分かれて意見交換。

①～⑤年

サークル歴 ①～⑤年

- ・広報誌は本当に必要か？
読んでるの？
- ・たんのう者の負担が大きい
- ・経費の問題

要員が参加費払う必要があるか？
要員の希望がない時...
要員経験者は勉強になった要員になった時は「おつめたまじ」には欲しい

サークルの人数がへたまり

手話の単語だけおぼえた人が多い(指導コミュニケーション型)

なにになに？



1年未満だと素朴な疑問も多い
5年の人と話が合わないところも

ろう者・聴者ともに仲間

⑥～⑩年

望むこと

- ・サークルに若い人が参加してほしい
(手話理解のある若い聴者3名が増えてほしい)
- ・サークルの中で情報の共有が必要(3ヶ聴)
- ・サークルの役割分担をバランスしてほしい

困ったこと

- * 健聴者同士で話しが進み、ろう者がついていけない
- * 3ヶ聴の手話が読み取れず、何話か聞いて分らない(つら)
- * 手話の勉強だけがサークルの目的と考へて(いる)
- * 中間者(6~10年)としては、パレラドを扱い、新しい人にも気を配る

(令和のサークルへ...)

多様な意見があり
共有化が図れた

⑪年以上

サークルを続けていこう

出会い！ 交流が楽しい

ろう者の気持ち
最も楽しい
ハングリー精神の極！

役員負担

サークルを守りたい

支援があった前感
ろう者のお客様感

3ヶ聴と6ヶ聴
サークルは情報交換の場

どちらか上下ではない！仲間

ろう者の誇りと
仲間と
手話は教えない！
そのサークルは
つぶすか
今はなくな

⑪年以上
高齢化...
サークルの個性
ろう者のサークル
自己満足 → X 反省

いい出会い → 続けた



経験年数によって意見に違いがあるも
どのグループもサークル♡愛があふれている

<内容>

一日目はグループ討議の前に昭和・平成の手話サークルの出来事を基調プレゼンで振り返り、助言者お二人からは当時の手話サークル活動やアイラブパンフ運動についての講演していただきました。



話合える仲間がいるから
乗り越えられる
ろう運動にもその一面が



二日目は手話サークルの課題、そしてこれからを全体で討議。

- ・技術が進み情報共有が変化してもAIには感情がない。
- ・楽しめる企画、地域社会を巻き込んでいく。
- ・サークルの人と同じお墓に入りたい（死んでも手話で話せる!?)
- ・仕事で疲れていても行きたい場所などなど話は尽きませんでした。



AIケンです

表情が
ない…



<全体会> 「千葉県手話サークル連絡協議会について」



県サ連発足は
手話を考えるフォーラム 2003 での
千聴連の一言から始まった

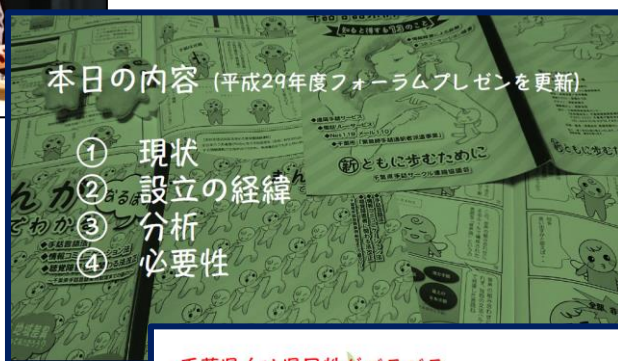
初めて聞いた話に
サークルは困惑!?

自主性を持ったサークル組織を!
代表者が何度も議論し

2005年 **県サ連**が誕生

様々な理由から加盟は減少傾向に

平成から令和へ時代が変わっても
サークル同士 **“つながり”** は大切
そのために一緒に考えよう!



千葉県人は県民性がバラバラ

地域には地域にあった活動がある

『こういう方法なら活動できる』と
ぜひ **提案** して欲しい

それが改善になります

